

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314

かさおか



東礼拝場前の手水舎

おつとめ奉仕者の増員

- ・一人ひとりが日々に真実を尽す
- ・布教によるおつとめ奉仕者の増加
- ・後継者講習会への参加による奉仕者の増加
- ・おぢばへの伏せ込みひのきしん





活動方針

創立百周年を目指して元をたずね
家庭の台教会の台となりましょう

- 一、おつとめに心を込める
- 一、にをいがけ・おたすけに励む

去る五月二十二日、笠岡支部婦人会では、天理教婦人会創立百周年委員部長講習会を大教会に於いて、百二十二名が参集し開催いたしました。

この度の講習会は立教百七十三年(平成二十二年)に創立百周年を迎えるにあたり、婦人会本部推進のもと、活動方針に込められた思いと、その実行を再確認し委員部長が、創立百周年を目指して更なる実動を誓う場となるよう、又、来年婦人会本部主催で開催されます「創立百周年 婦人会員決起の集い」(地域開催)につながるよう、そして会員一人ひとりが活動方針を実行できるよ



うとの主旨の元、開催いたしました。

なお笠岡支部のプログラムは午前九時三十分から本会よりのメッセー
ジのあと、大教会長様より御講話を頂きました。そして、三日講習会を受講された二名の方の体験発表、昼食をはさみ体をほぐした後、心を引き締め支部長の講話を聞かせて頂き
少人数によるねりあいを真剣に重ねたあと各々、委員部長としての心定めを親神様、教祖に御供し心を揃え、創立百周年にむかって旬に遅れぬ歩みを進める事をお誓いしおつとめをさせて頂き閉講の挨拶で全日程を終了、午後三時三十分には散会致しました。

(常任委員 岡 崎 豊 子)

「笑いと感動が 可能性を引き出す！」



— 村上和雄先生を迎え

文化講演会開催 —

高屋分教会

高屋分教会では、四月二十七日、井原市民会館を会場に、筑波大学名誉教授の村上和雄先生を講師に迎え、文化講演会を開催した。

これは高屋につながるようぼくが、この句に一堂に会して信仰の喜び、信仰の仲間をたしかめあうと共に、さらに一歩踏み出し、ようぼく各々が一人でも多くの新しい人に声を掛け、誘って参加しようというものの。

当日は、「高屋が主催する行事は雨は降らない！」というジンクスもあり、晴天の御守護のもと、奈良、大阪、広島、九州など、遠方よりの参加者も含め、約一千名というほぼ満席の入場者で賑わった。

開催日の数日前には、一千三百枚用意した入場券が底をつきかけ、「もう入場券の配布をやめよう」「入場券が余っている教会には返却してもらおう」とのうれしい悲鳴も。

「通常、このような講演会なら入場券をもっておられる方の八、九割はこられますよ」との市民会館よりのアドバイスもあり、中には都合で

来られない方もおられるだろうが、何とか全員に入場してもらおうと、ロビーにプロジェクターを設置。また、子連れの方にも安心して聞いてもらいたいと、託児室も設け、駐車場も市民会館、市役所はもとより、周辺の会社、病院、銀行にもかけあい借用するなど、万全の準備で当日を迎えた。



村上先生は、一千名の観客の前に、「笑いと感動が可能性を引き出す——眠れる遺伝子を目覚めさせよう——」というテーマで話され、

「笑いによって多くのよい遺伝子のスイッチがオンになる」

「遺伝子には、世代を超えて情報を伝達するという大切なたらきがある。しかし、私たちの体内で生命の維持に必要な物質をつくりだしているという、もう一つのはたらきについては、意外に知られていない。遺伝子は、いわばからだの司令官で、血糖値のコントロールにも密接にかかわっている」

「膨大な遺伝子のうち、実際に活動している遺伝子は十%程度で残り眠ったままであること、さらに、眠っている遺伝子が周囲の環境や外からの刺激によって目を覚ます」

「よい遺伝子のスイッチをオンにできれば、私たちの可能性は飛躍的に向上する」

等々、ユーモアを交え、遺伝子工学の分野の分かりにくい内容を分



かりやすく話された。また、「親神様」を「サムシンググレート」と呼ぶなど、お道の言葉を使わずお道の話を一一般の方にわかるよう話された。

参加者の募集に当たり、会長様より打ち出された「会場を一千名の人で埋め尽くそう」との心定めに応えるべく、井原市長に招待状を出した

方。地元のお医者さんに片っ端から案内の手紙を出した方。四十名の心定めのところ、百名以上の入場券を配布した教会。会場までの距離が遠いため、いくつかの教会と共に大型バスを仕立て募集に歩いた教会等々、数々の工夫と努力、一手一つの丹精が実を結んだものと信じます。

また、地元のケーブルテレビ「井原放送」を通じPRをし、その中から「井原放送で知ったがどうすれば参加できるのか」「入場券を〇〇枚ほしい」等々の問い合わせがあり、その中から多くの参加を頂き、メディアの大切さも大いに感じた。

今回、感動と感謝と喜びの内に、行事を終えさせて頂くことができたが、これをただ単にその場限りの打ち上げ花火に終わらせるのではなく、参加して頂いた方へのこれからの丹精を心に誓い合い、盛会のうちにつとめ終えることができた。

当日の記録DVDビデオが必要な方には実費でお分けしますので、高屋分教会までご連絡ください。

教えに基づく精神なら にをいが自ずとかかる

— 教会長夫妻・布教所長夫妻

研修会 開催 —

島根分教会

四月二十二日午後一時より四時まで
島根分教会部内教会 二十、布教所 一七、四十三名参加。

第一講は、講師辻聡先生(米城分教会長)を迎え、地域の奉仕活動に積極的に参加し、その活動の拠点を教会に置いて、各会を「点」としてそれを繋ぐ「面」とすることを実現した経緯、その活動を通じ「道の匂い」を広めた実際を受講した。
第二講は六班に分かれて「地域と教会・布教所」の活動を互いの参考

となるよう「ねりあい」話し合い、先生を囲んでの「質疑応答」では、その秘策を探る質問や極意を聞かせて頂き、明日に向かって新しい気持ちを抱いて散会しました。

研修会に参加して

照雲分教会長 雑賀元生

講師の辻先生のお話はとっても興味深いものでした。地域のボランティア活動などの拠点を米子市に在る自教会に置いて活動中で、米子市の祭りや皆生トライアスロンなど、全教一斉ひのきしんデーにも動員されています。教外の方々との付き合いの仲から、天理教はこんな事をしていのかと、続けて行く内に認知され、それが知らず知らず「にをいがけ」につながっていることでした。

その活動の中で、天理教では、こういう教えなのだ、疑問に感じられた時に、説明をして納得してもらおう、と話されました。
つい、お道の中では「教え」を、

ああです、こうですと、話を聞いてもらおうという姿勢になりがちなところを「聞かれてから答える」と云う、長いスタンスで、感じ取ってもらい、教えを知ってもらおうと言う考え方に、感心させられました。気長に又、継続することの大切さ、そして人の為になること、喜ぶことを見つけて実行してゆく行動力は見習うべき事でした。

「ねりあい」も、皆さん顔見知りであることから、地域的な見地で色々意見が出されて、有意義で自由で闊達な交換が出来たし、これからの活用できる研修会でした。

これからの布教活動に

参考になった。

富田布教所長 鳥谷達男

四月の月次祭から、布教所長を父から受け継いで間の無い私。島根分で「研修会」が行われて、緊張とちょっとテレくささの中、家内と参加いたしました。先ず実感として「意義深い」ものとなりました。それは、講話、ねりあい、質疑応答の中で、講師先生の「天理教と地域社会との係わり」を聞かせて頂いた事でありました。先生は「お道の御用を何時しておられるのか？」と云うぐらい広く地域活動をされているのです。ボランティアでも、「ひのきしん精神」で行えば立派な「にを

いがけ」に成るとの事でした。今まで自己的には、にをいがけ おたすけ と言え、ただただ聞いて頂ける方を求めて歩く、と云う強いイメージを持っていたのですが・・・

この研修会の受講を通じて、自身の布教スタイル、また教会の布教活動を思うにつけて、深く感銘し、考えを直さざるを得ません。私個人として、もっと地域の中で生かすことは出来ないのか？ また、教会を、人を、場所をもっと地域と密着させる活動を模索して、真剣に考えて答えを出して、更に実行して行かなければいけないのだと強く感じたのであります。現状の私は、仕事で生計をしておりますので、なかなか思うようには布教が出来ないと考えて居ましたが、お話の中からヒントになることが沢山あり、型破りな事からでも、得手なことやサークルにも活動拠点を提供し、自らが継続的な行動を展開して行く事だと、考えを変える事にしました。

そう言った意味からでも、自身の布教活動に参考になった、意義深い研修会の中身でありました。このような有効的な企画をして頂いた島根分教会長様に感謝を申し上げます。

◆縦の伝道講習会

- 【日時】 6月21日(土) 祭典講話として
- 【内容】 縦の伝道についてのお話し
- 【講師】 少年会本部 委員
- 【対象】 教会長夫妻、布教所長、よふぼく

◆少年会 実技講習会

- 【日時】 6月21日(土) 午後1時半～3時
- 【内容】 こどもおちばがえりの車中ゲームや教会おとまり会にてのソング・ゲーム指導。
- 【講師】 少年会本部 部員
- 【対象】 隊育成委員長、おとまり会を計画しようとする教会のよふぼく

◆各行事に参加ご希望の方は、

各ブロックの担当者にお申し込みください

談話室



後継者講習会を終えて

葦陽分教会 笹尾 理 栄

後継者講習会の最終日程となる4月11日〜13日に参加させていただきました。11日は自教会の月次祭、また仕事もあり、参加を諦めていましたが、どちらも何とか都合が付き、参加させていただきました。今回の講習会で一番心に残ったのはNさんとの出会いです。偶然同じ日程で同じ班、それも全て親神様が引き寄せて下さったのだと思うと、改めてご守護によって生かされていることを実感させられました。私は教会に生まれ、当たり前のように信仰を受け入れてきました。Nさんは家庭の事情でお母様が入信、不思議なご守護をいただき、自らの意思で入信されたとのことでした。私よりもずっと信仰歴が浅いのに、しっかりとした信仰心を持っている方でした。私は講習会に参加する10日ほど前から、階段を上がり下りするのが辛い程、左足首に痛みを感じていました。1日目の夕づとめ後、2人で教祖殿を参拝し、

宿舎に帰るまでの道のりで足の痛みの話をしました。するとNさんは「足は運びだね」と言ってくれました。それを聞いて思わずハッとしました。最近大きな事情を抱えて気持ち塞ぎこんでいる親友がいて、私はその子に対して何も行動出来ずにいました。やっぱり私力がなくなってあげなさいいけないんだ、何か行動に移さなければという気持ちになりました。2日目、紺谷清春先生が講話で、おつとめの大切さ、人様のことを我が事としてお願いする、その真実の心に神様が働いてくださるとお話くださいました。親友に何とか助かってもらいたいと願う心、心の運びが足りなかったから足の痛みで親神様が気づかせてくれたんじゃないかと思案しました。講話が終わり階段を下りている途中、左足首が急に「ピキッ」と大きな音を立てました。その直後から、痛くて歩くのも苦痛だった足の痛みがスッと無くなりました。Nさんに話すと自分のことのように喜んでくれました。Nさんとの講習会での出

こころの詩

▼表紙の版画

東城分教会長 横山 逸郎氏



会いが無ければ気づくことはなかったと思います。神様が先回りして機会を与えてくれたのだと感謝しています。Nさんの信仰心に触れて、教会に生まれたから信仰しているという考えから、自分の意思で信仰をしたいという考えに少しづつ変化していくきっかけを与えてもらった気がします。神様の親心に敏感に反応できるよう、信仰心を確かなものにしていきたいです。

五月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様には一れつ子供の陽気ぐらしを楽しみに心一つの理に身体をお貸し下されるだけでなく天然自然のお働きを始め万いさいの御守護を下さり日々結構に生活くらしさせて頂いております事は誠に有難く勿体ない極みでございますしかしその一方で「このせかい山ぐゑなそもかみなりもぢしんをふかぜ月日いいふく」とお示し下さいますように単にやさしいだけでなく大変厳しいお仕込みには畏敬の念を憶えずにおれません只本来出るはずのない犠牲者が多数出てしまっていることは誠に残念でなりません私共は身上事情で苦しむ人やそういった犠牲者が出来ないよう親心と親の働きを一人でも多くの人に伝えるべく日々は朝に夕に御礼申し上げますと共ににをいがけおたすけにと勤め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日よきひは五月の月次祭を執り行う定めの日柄でございますので只今からおつとめ奉仕者一同喜び感謝の心も一人に明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめさせて頂きます御前には目に鮮やかな色とりどりの花や目に眩しい若葉青葉に心躍らせつつ今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が相共にお歌を唱和し日頃の御高恩に改めて御礼申し上げますと共に苦しみに喘ぐ人々の救いを願う真実の状を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて去る四月二十九日の全教一斉ひのきしんデーには国の内外を問わず世界中で多くの教友がひのきしんに汗を流させて頂きました晴天の中大勢の人と共に除草等させて頂きましたが一人でするひのきしんと違い一手一つという心強いものを感じながらつとめる事が出来ました事が大変有難くこれからも益々日の寄進に邁進させて頂く所存でございます又「月日の残念立腹」の姿がよふぼくらしいよふぼくを求められている現在に現れている事を思案した時新しいよふぼくを御守護頂くためにも今いるよふぼくが真に陽気ぐらし建設の用材としての自覚を高め戴いた「おかきさげ」に親しみその思召に則し大恩を心に治めて日々御恩報じの思いに徹してたすけ一条の御用の上につとめさせて頂く覚悟でございます

何卒親神様には皆の心定めの真実をお受け取り下さいまして万たすけの上にも尚も自由の御守護を賜りたすけ一条の心が一人また一人と伸び広がりよろず互いに扶け合う世界へとお導き下さいます お望み下さる陽気づくめの世界が一日も早く実現しますよう御守護の程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

忘れ勝な私の心

浅野彌三郎

神言に「自由用といふ理はどこにあると思ふなよ只めんく精神一つの理にある」と仰せられ
てあります。私はその自由用を頂く精神一つの理といふのは元一つの心を貫徹する處にあると
思ふのであります。即ち命を助けて頂いた元一日の飛び立つ様な喜びと燃える様な信仰を
持續して萬事にその心持で當らせて頂きますればほがらかな晴天續きの道を通らせて頂く事が
出来るのであります。

前會長様からも屢々道の理は算盤の桁の様なものである、一とも言へば十とも百とも千萬億と
も言ふと聞かされました。元の心を失はずして「何でもどうでも成つても成らないでも」といふ
すさまじい精神一つの理を神様は御要望なさつて居るのであります。その精神に神様が働いて
も下され我々が助けても頂けるのであります。

明治二十六年舊十月、私は島根縣へ布教を命ぜられました。勿論費用は一切支給されなかつた
のです。専心布教に従事したのですが道は思ふ様に伸びなかつたのです。されど出發の際にと
うでもこうでも道を付けさして貰ふと確い決心を定めて出て居るのですからこうなる事は覺悟
の前です。然し僅かな布教費は缺乏を告げ全く困苦艱難な現狀に到達したのです。當時商賣に
馴れた私の經驗から或る品物に手を染めると必ずいさよかな利益を見られる事柄が突發して居

りました。衣食に事缺ぐまで窮迫すると一時それでもやつて現状だけ切り抜け様か……といふ
 人間考が絶間なく私の心に閃めいて参ります、一方では反対に利害勘定に心が走る様で神一
 條の道が立つか、お前は何しにどうした心で單身布教に決めたのだといふ良心のさくやきが鋭く
 頭を持上る。一ヶ月の間、間断なくこの心の戦争は續ひて居りましたが神様は邪道に迷はんと
 する私の心を導いて下さつて眼前の利益問題を心から取拂ふ事が出来たのであります。
 すると間もなく八里程隔つた地から布教地の本庄に嫁付いて来て居る人が永年のリユーマチで
 苦しんで居たのに匂が掛り、一度のお授けで自由用を頂いたのであります、餘りな嬉しさと不
 思議な力に一驚したその人は私に向つて、「八里向ふの大東に私の懇意な人が病氣になつて困
 つて居ります。こんな有難い神様なら私が手引さして頂きます。是非行つて下さい」と申しま
 す。私は二つ返事で引受たものゝ懐中無一物、行けば旅費も入ろうし宿も取らねばならぬ。そ
 こで或る信徒の家へ何とか頼んで見ようと門口まで行つてフト考えた。これはいけない天理教
 の先生が金を貸して呉れと言つて神様の道に疵を付ける様な事があつては神様に申譯がない。
 そう思つたので其儘踵を返して他の一軒の信徒へ兎も角留守にする挨拶だけして歩いて行かう
 と心を決め、その家に立寄り大東へ行く旨を話した。そして別れを告げ十四五間も後戻りした
 時、その家の主人が急がしく私の後を追かけて来て先生これはほんの些細な金ですが何かの用
 に足して下さいと一封の包を呉れたのです。あゝ神様は何といふ御慈悲だらう。神恩の鴻大な

御恵に感謝と喜悅の念を捧げて出發しました。

目的の地へ着いて五日程滞在して居る間に病人も御守護に浴しましたので一先づ歸る事にしました。といふよりは實はその晝までの宿料を勘定して見ると四錢しか残らないのです。四錢では夕食にも有り付けないので先方へは急用が出来たと態よく斷つてテク〜歩いて本庄の所在地へ歸りました。時は夜中の十二時頃です。家人が私の遅いのに驚きながら先生笠岡から書面が来て居りますといふので開封して見ると替爲が同封してありました。私は神様の御慈悲と靈妙な御働にこゝでも有難涙にむせばずに居れませんでした。こうした暖い親心に切端詰った急場を其場々々で通して頂いたのです、この事に端を發して大東方面に道が芽生へかけたので、幸ひ頃は夏であつたし大低テク付いて夜間兩布教地を交互に往復した譯であります。かゝる布教状態が二月月續いた時六十五軒の信徒を神様から御與へ下さつたのです。生活難と傳道上の障害に遭遇して前途の多難をうたふ憂慮せずに居れなかつた當時の苦境を神様は私の僅かな仕切根生に乗つて道を切り開いて下さつたのです。

そうこうして居ります内、此處に常識を以て考え及ばない面白い事件が興つたのです。そしてその出来事が燃えかけて居るものに油を注いだ様に細道を大道に進出さす動機となつたのです。三十八年の秋でしたか、三代貞七といふ村會議員まで勤めた村での名望家がありました。その

その人の奥さんがコレラに罹り、私は徹宵このお助けに當らせて頂いたのです。……が不幸にして夜が白々と明け放れると同時に絶命致しました。本人はそれで済んだのですが済まないのは家族の者達、誰彼なしに一樣に傳染の氣配がして枕を列べて倒れて了つたのです。それが爲に三代家は交通遮断の憂目に會つたのです。私はそんな事を意に介せず三代氏に懸命に教理を取次ました。三代氏の胸に「ほんに人間の体は借物だ、借物である以上神様の御思召であれば一度は必ず御返しせなければならぬ。それを人間が案じたつて煩ふたつてどうもなるものでない、神様に縋つて居ればよいのだ」といふ考えが浮ぶと同時にスーと胸がすいて助かつた。この事を家人に話すとコレラの罹病状態から不日にして家人も救はれたのです。嘘の様な本當の話、そこで交通遮断の解禁されない中を五日目に私は運んで行つて、夜の十時頃から十二時近くまで話合つて居ります處へ運悪くも巡回中の巡查がヒョッコリ這入つて來たのです。さあ大變天理教の教師ともあらう者が社會に害毒を流す様な事をする、又三代さんも名譽職まで勤めて居る様な人でありながら不都合だと散々油を取られ即刻役場に引張られて全身を消毒されました。私は此事件が影響してもし漸くにして曙光を見出さんとして居る道を互解する様な事が有つては……と眞に斷腸の思ひがしました。然し世の中は何が幸になるか分らないものです。天理教の先生にはコレラが取つ付かない。と言ふ奇妙な噂が擴がつて私の心配と反對に世間はその事で反つて好感を持つて呉れる様になつたのです。神様のお働は全く人智のらちを超えるも

のです。こうした事が親様の御教を急速度に伸べ擴げて行つたのです。

一難去つて又一難、道の上には限りなく神様の御慈悲と涙の筈が降ります。漸くにして道が勃

興したすと今度は僧侶達が自分達の世界を、領域を侵蝕され、をびやかされたものですか

ら天理教撲滅演説會を始めだし、又二十九年には本教迫害史上最も酷烈なるあの秘密訓令の飛

つぱしりを受けて關係者が警察に引かれるなどの反對が起りましたが反てそれが島根出張所の

開設を見た譯です。順調な歩みを續けて六百五十の信徒が信仰にいそしんで居た處計らずも三

十五年八月、地方長官が元佛教僧侶であつた爲に出張所は取消の危に遭つたのです。粒々辛苦

の種は根こそぎに破壊され、當時の悲惨な状態は人間的に見て實に血涙の極みであつたのです

私は神様御教祖様に何と申譯してよきか上級、社會に何の面目があるか、只もう申譯なき自

責の念が全身を狂奔して焼けたざる様な責任感に虐なまれたのです。その中からかすかに蹶起

を促すものは「元一日の精神をどうしたか」といふ心中の叫びであります。私は更に勇氣を鼓舞

して難局に當らせて頂きました。かゝる曲折の道すがらを重ねて明治三十七年の秋となり、始

めて大丈夫といふ地盤が礎けたのであります。

總て道は一日の理を失はず何でも心で勤めて行けば親様は確に働いて下さるのであ

ります。去りにし教祖四十年祭の際、如何なる御奉公も辞せずと考へ且又會長様からも厳し

き御仕込を頂いて居りながら元一日の眞劍なる心を失つて居たが爲時々身上も頂きあたら大切

な旬しゆんぞに添そふべき御奉公ごほうこうをようせなかつたのであります。

最早もはやほんぶ本部より五十年祭ねんさいの打出うちだされて居ゐる今日こんにちであります。私わたくしとしては一昨年さくねん一月ぐわつ身上みじょうを頂いたき其上うへから會長かいちようさま並ならびに本部ほんぶ榊井先生まさいせんせいが「これまで充分じゅうぶん勤つとめてはあるだらう、なれど今後こんごは更に進すすんで二倍にばいの働はたらきを盡つくす様神様やうかみさまの御要求ごようきゆうであらう」といふ御教訓ごきょうくんを賜たまつたのであります。その神意しんいを兎角さかくわす忘れ勝がちな私わたくしであります。が爲ために會長かいちようさま様に再三さいさん御心勞ごしんらうを煩わづらはし御吐おしかりを受けて居ゐる次第しだいであります。

何程なにほど年限ねんげん経たつても松まつは依然いぜんとして松まつ、杉すぎは依然いぜんとして杉すぎ、各々おの／＼の素質そしつを變かえないで年限ねんげんと共にねどりを強つよくして行ゆくから枝葉えだはも盛さかえるのです、私達わたくしたちも全様どうやう、一日じつの理りを失うしなはず實じつの親様おやさま御自由ゆうあればこそといふ根足ねあしを培つちかふて行ゆくから先々さき／＼の結構けつこうを見みせて頂いたげるのであります。木々き／＼が根ねを病やんで何處どこに盛さかえる理りがありません。お道みちの者ものに元もと一日じつの精神せいしんを忘わすれる程ほど恐おそろしい事ことはありません。

元もと一日じつの理りを兎角さかくわす忘れ勝がちな私わたくしであります。が故ゆへに私わたくしの過去かこの道みちすがらを皆みな様さまにも聞きひて頂いたき、私わたくし自身じしんの心こころにもその理りを蘇よみがえらし共ともに五十年祭ねんさいに振起しんき、發奮はつふんして御教祖ごきょうそ様に御満足ごまんぞくして頂いたきたく思おもふ次第しだいであります。

終

大教会だより

◎第八〇三期修養科

自 立教171年3月1日
至 立教171年5月27日

*教 養 掛

三ヶ月間 上原 浩

(大教会役員)

一ヶ月目 吉岡 輝 昭

(安那分教会長)

二ヶ月目 小坂 静 宏

(神邊分教会長)

三ヶ月目 本多 一 男

(西伯分教会長)

*修 了 者

神 邊 油 井 浄 子

稲 倉 北 川 祥 江

亀 田 山 新 良 佳 永

亀 田 山 石 田 美 保 貴

◎教会長資格検定講習会修了者

後期 立教171年5月19日終講

弥高山 岡崎 ひさよ

◎本部食堂ひのきしん

自 立教171年5月1日
至 立教171年5月15日
久松 中村 京子



今年の桜は、例年なく一気に咲いてそれは見応えのある優雅な景色でした。教会の前は、ウォーターフロントの清流がせせらぎ、河川敷は「桜並木」と市が管理する公園もある風光明媚な桜の名所であります。ソメイヨシノが先に咲いて、八重桜「一葉」の開花途中から「御衣黄桜」が咲きます。(御衣黄は、咲始めは薄緑色から浅黄色になり、やがて白かった中央部が赤色になってからポトリと花ごと散ります)この「御衣黄」を愛でる為に、近在各地から訪れてくる見物客が多い事でも知られた所でも在るのです。

「天理時報」五月十八日号に、我等が顧問先生執筆の「世は鏡の如く、ひと月早い」桜見物」でご紹介頂きました。それはもうベタほめの書き方を戴き、読んだ人はそれこそ「一度行って見たいな」と思われるかも? 知れませんが、編集部の仲間も移動例会でも言うかも知れません。云うて於きますが、確かに桜の季節の河川敷は綺麗やし・・・

教会は親神様が御鎮まり下さる所。しかし、住んでいる人間がそんなに綺麗じゃない、いまだ罵声が飛び交う因縁者の集団です。それを、母御は「御衣黄」のようと称えて戴き、果ては皆が「ソメイヨシノ」に見えるたなぞと、勿体無く有難く、御礼の申し上げようも無い「光栄の突き当たり」で御座います。顧問先生に、この気持ちをごのように表せばいいのか? 感謝の誠を形に変えれば・・・そう

だ・・・この地方にある「特産ワイン」を送ることにしよう。一本じゃ・・・あれだから二本だ! それを一年ぐらい続けて・・・いやあそんな事出来るわけが無い、せめて・・・早速電話で御礼申し上げて、心の誠を伝えることと致しましょう。

先生せめて写真を送りますのでご容赦下さいませ。なんてネ・・・

(に)

